



校長室だより

令和5年度

6月8日

NO. 11

自分のこととして 防災を考える

荒れ狂う濁流が、川岸を飲み込んでいきます。6月2日の日本列島を襲った大雨は、ここ秦梨にもいろいろな被害をもたらしました。テレビでは「100年に一度あるかないかの大雨」といっていました。(これから先100年、こんなことがなければいいのですが…)学校からも、普段は道を挟んでいて川の水面は見えないのですが、この日は、まるで波のように激しく流れていく川の姿が、すぐそこに見え、恐怖を感じました。さらに歩道も、川の水でなくても、山や坂から流れ落ちてくる水や、側溝に収まりきれない水で、あふれかえっていました。あらゆるところに危険を感じ、まさに私たちの力では及ばない大きな「自然の脅威」を見せつけられたという感じでした。

私の住む地域でも床上浸水があったりしましたが、実際に、災害自体を抑えることは大変難しいことです。だからその中で、いかに命を守るかということ、日頃より考えておかなければならないと、改めて考えさせられました。学校でも、大雨当日は、当初の予定を早めて、下校の連絡をさせていただきましたが、保護者の方には、お忙しい中、すぐにお迎えに来ていただき、ありがとうございました。激しい雨の中での下校となってしまうご迷惑をおかけしましたが、保護者の方の早い対応に、さすが意識の高さを感じました。

6年生は、ちょうど今回と機を同じくして、国語科の学習の中で、いろいろな災害について、チームで調べました。自分たちでテーマを決め、自分たちで資料や情報を探し、紙面やPC(パワーポイント)等にまとめ、大型TVやタブレット等を使って、クラスで発表をしました。その中には今回の「土砂災害」や「水害」などについて調べたチームもあり、また「台風の対策」や「土砂災害に備えて」などの対策についても調べられていました。日頃から、どうしたらよいか、こんな時はこうしようと、自分で考えておくことが大事であり、6年生が行ったのも、(国語科の調べ学習の勉強ですが)まさに防災学習でもありました。また、学校の階段には、安全マップが、校門付近には防災倉庫やハザードマップなどがあります。避難訓練でも、大事なことは「自分の命は自分で守ること」と言っていますが、今回の災害や訓練を通して言えることは、こうした問題を他人事として(他人の問題として)考えるのではなく、自分のこととして考えることが大切であるということです。



秦梨っ子は、帰りに「交通安全誓いの言葉」を復唱しています。今回のこうした機会に、災害に対する備えや安全への意識を高められたら良いと思います。